

○村上智行委員長 続いて、日本維新の会の質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて二十分です。小野寺健委員。

○小野寺健委員 私からは、第二款総務費、第十項生活環境費のうち、文化振興費に計上されております県民会館管理運営等事業費、そして宮城県立劇場整備費について伺います。

県民会館の管理運営等事業費、救命等事業費として約一億六千九百六十万円が計上されておりますが、その内訳と用途についてお示しいただきたいと思えます。あわせて、宮城県立劇場の整備費として約六十六億七千五百九十九万円が計上されておりますけれども、新年度の事業の内容についてお示しくください。

○末永仁一環境生活部長 県民会館管理運営等事業費でございますが、県民会館は、公益財団法人の宮城県文化振興財団が代表となります宮城県民会館管理運営共同企業体が指定管理をしております、その指定管理に要する経費でございます。現県民会館の指定管理は、昨年度から令和十年までの五年契約となっております、その契約に基づき計上しているものでございます。また、県立劇場整備費の約六十六億七千万円余でございますが、そのうち約六十五億七千万円余が建設工事費でございます、来年度は主に掘削した地下部分の基礎工事と地上部の躯体の鉄骨工事を予定しております。

○小野寺健委員 県民会館は、これまで宮城県の文化政策の中でどのように位置づけられ、機能してきたのか伺いたいと思えます。特に、文化振興、地域文化の支援、文化芸術の普及という観点を踏まえて御説明いただきたいと思えます。また、整備・改修が進められております県立劇場は、今後どのような役割を担うべきと考えられておられるのか、文化政策の中核施設としての理念と具体的な役割について伺いたいと思えます。

○末永仁一環境生活部長 県民会館は昭和三十九年に開館しまして、大ホールは千五百九十席を備え、これまで音楽コンサートや舞台芸術等の公演が盛んに開催され、県民の皆様には質の高い多彩な演目を届けてまいりました。また、年間利用のうち約三割は学校行事や文化芸術団体等にも利用されまして、全国高等学校総合文化祭や全日本吹奏楽コンクール、宮城県芸術祭等の大規模大会の会場にもなるなど、県内の文化芸術活動をリードし、我が県を代表する文化ホールとしての役割を果たしてきたものと考えております。県民会館の今後の在り方の検討に当たり行った需要調査によれば、興行公演のジャ

ンルとして、全国的には音楽と演劇などのステージ公演の割合は半々であります。宮城県民会館の場合では、音楽が八対二の割合で多く、今後ステージ公演の拡大が期待できること、また、地元劇団と県民が利用しやすい中小規模の劇場についても需要があることなどが指摘されました。現在整備を進めている県立劇場につきましては、グラウンドホールの舞台は十分な広さを確保し、これまでにない多彩な演目の公演が誘致可能となるとともに、約六百席規模のスタジオシアターは、県内の文化活動団体等の利用にも適しているものと考えております。

○小野寺健委員 人口減少と価値観の多様化が進む中で、公立文化施設は単に来場機会を提供するだけでは十分とは言えません。観客が文化の担い手となる仕組みづくり、すなわち創る客ですが、創客の視点が重要だと考えます。現状、県民会館の運営では、アンケートや広報中心の情報発信にとどまっております。観客データの活用や関係性が弱いという指摘があります。私は学生時代に、演劇評論家であり可児市文化創造センターの館長を務めました衛紀生さんから創客という概念を学びました。創客とは単に観客を集めるのではなくて、観客との関係を育て、文化の担い手をつくり出す戦略的なアトマネジメントの概念です。衛紀生さんが提唱するこの創客の概念を踏まえて、劇場を文化教養創造の拠点として育てる戦略について、県はどのようにお考えなのかお示しいただきたいと思えます。

○末永仁一環境生活部長 県民会館の指定管理者の代表となります宮城県文化振興財団では、これまで貸館を主たる事業として展開しながら、一部の演目では内容をより深く理解してもらうための鑑賞入門講座を開催しまして、公演に対するファン獲得にも努めてまいりましたが、文化施設が創造の拠点となるためには、御提案のあった創客の概念を踏まえた取組を展開することが重要であると認識しております。他の自治体の文化施設におきましては、高い芸術性、専門性を持つ人材を施設のスタッフとして起用し、自身の表現活動を継続しながら施設の企画運営にも携わり、舞台芸術の制作・公演、展示会や参加型イベントなどの実施を通じまして、多世代の交流やアーティストと参加者の日常的な接点をつくって、文化施設を身近に感じられる環境づくりに成果を上げております。こうした事例を参考にしまして、県立劇場では、県内の若手アーティストをアーティストディレクターとして任命しまして、県民参加型のプログラムを充実させると

ともに、創作活動や講演の場面等にも様々な方々に参画していただくことを計画しております。

○小野寺健委員 少し具体的に伺います。SNSやアプリ等を活用した双方向のコミュニケーションについてなのですが、観客との関係を深めるために不可欠だと言われています。県民会館の現状においては、先ほども御指摘させていただきましたが、情報発信にとどまっております。双方向の関係構築という視点が弱いという指摘が他方から出ております。観客が劇場とつながり参加し、関与できるオンライン接客の構築方針について、部長の答弁を求めたいと思います。

○末永仁一環境生活部長 御指摘のありましたSNSやアプリなどを活用して、双方向のコミュニケーションを図る取組について、他の文化施設では、SNSのハッシュタグを効果的に活用しまして、施設と観客の双方が情報発信に参加している事例や、公演のオンライン配信、公演前後の観客と施設の職員も交えたファンミーティングなどの事例がございます。我が県民会館では、現在、公式ホームページのほか、SNSやリーフレット等によりイベント情報を発信しておりますが、劇場への愛着を醸成して劇場と観客との双方向による関係を構築していくためには、SNS等のオンラインサービスを更に効果的に活用することも有効でありますことから、今後、県立劇場におけるオンラインサービスを活用した接客の在り方について、様々な事例を研究しまして、指定管理者とともに検討を進めてまいりたいと考えております。

○小野寺健委員 そして劇場が地域文化遺産や特産品、歴史と連携することは、地域のアイデンティティーの形成や観光振興にも寄与していきます。県民会館ではどのようなことをされてきたのか、実施されてきたとすれば具体的なプログラムとその成果について伺いたいと思います。また、この地域資源の活用、連携強化というのは本当に大切な視点だと思いますので、宮城県立劇場におけるこの地域資源との連携強化策について、どのようなお考えを持っていらっしゃるのか伺いたいと思います。

○末永仁一環境生活部長 これまで、宮城県文化振興財団では、文化芸術の力による地域力向上に取り組む活動を支援するとともに、県内の文化芸術団体による芸術祭、工芸美術展などに共催で参加することなどによりまして、地域文化の振興と交流人口の拡大にも寄与してまいりました。新しい県立劇場では、管理運営計画において、基本理念の

一つに地域との連携を掲げておりまして、地域に引き継がれる伝統芸能のイベントやアーカイブ化による情報発信のほか、芝生ひろばを活用した地域特産品のマルシェの開催などが考えられるという状況でございます。

○小野寺健委員 地域資源との連携強化でマルシェなのかなあという感じはするのですが、もう少し先ほどの質問でいくと、地域の文化遺産、特産品、歴史、特に宮城県は地域資源を持っているので、今質問して、その辺の強化策をこれから考えられるところもおありになると思いますので、ぜひとも考えていただきたいと思います。文化というのは、観光、教育、福祉、産業など異分野との連携が進むほど、私は社会的価値が高まっていますのではないかと思っています。異分野との連携がなかなかされていない現状でありますけれども、抽象論ではなく、今後についてどう進めていきたいのか、どう進めていくのかというものを、もう少し端的にぜひ御答弁いただきたいと思えます。

○末永仁一環境生活部長 県では、第四期宮城県文化芸術振興ビジョンにおきまして、「文化芸術の持つ力の活用」を重点方針に掲げておりまして、文化芸術が有する価値を通じて、福祉、教育、観光等の他分野にも、その効果を波及させることが重要であると認識しております。現在でも、未就学児向けアウトリーチ事業や障害者向けのコンサートを開催、中学生・高校生に対する文化芸術体験の開催支援のほか、東北六県及び仙台市と連携しまして「東北文化の日」というものを開催しております。観光面での誘客の促進など各分野と連携した取組を展開しているところでございます。このほか、現在ですけれども、県立劇場に關しまして、まちづくり団体と共同で建設現場の仮囲いに障害者アーティストが描いた作品を掲示する取組も進めていくこととしております。今後とも現在の取組を継続しつつ、県立劇場の開館を契機としまして、他分野との連携を強化し、波及効果を更に高めていけるよう県立劇場における取組にとどまらず、県内各地を舞台とした体験・交流事業等を充実させてまいりたいと考えております。

○小野寺健委員 今御答弁いただいたようなことは指定管理者だけでは無理なので、宮城県としての施策の一環として、ぜひ取り組んでいただきたいと思えます。

どうしても財政のほうに行ってしまうのですが、公立文化施設の運営は、貸館料の収入だけに依存しているのは持続可能性が担保されません。例えば寄附、ネーミングライツ、スポンサーシップ、クラウドファンディングなど、多様な財源確保策が必要だと思

いますけれども、どのようにお考えでしょうか。

○末永仁一環境生活部長 公立文化施設の持続可能な運営において、貸館収入や自主事業収入のみならず、外部資金を積極的に獲得し経営基盤を強化することは、重要なことであると認識しております。県立劇場では、新たな組織体制としまして、広報・マーケティング担当を配置し、施設の知名度向上を図りつつ、県立劇場のファンづくりや、県民、企業との信頼関係構築につながる活動を展開する予定でございます。また、企業とタイアップした事業に加えまして、他の自治体の施設では、賛助会員制度とか、年間協賛パートナー制度などを行っておりますので、こうしたものも参考に、こういったものが創設できないかということで検討しております。単発の事業支援にとどまらない継続的な協力関係を構築していくことを検討しております。そのほかにも、ネーミングライツの導入は他県でも様々な施設で活用されておりますし、また、企業版のふるさと納税の活用、そして、特定プロジェクトの実現に向けたクラウドファンディングの実施など様々な手法がありますので、そういった手法も活用して、外部資金の獲得に向けて今後検討を進めてまいりたいと考えております。

○小野寺健委員 今でも東京エレクトロンホール宮城ですから、ネーミングライツは進めておられるわけでありまして、宮城県立劇場というブランド力をもってすれば、ネーミングライツでお金の負担をいただくということも可能だと思いますので、御検討いただきたいと思えます。

知事に伺います。劇場のブランド力は、誘客や地域のアイデンティティ形成に直結すると思っております。県立劇場において、ブランド構築の方針、ターゲットの設定、そして、競合との差別化など必要だと思いますが、ぜひ戦略についてお知らせいただければと思います。

○村井嘉浩知事 県立劇場は、「アート・エンターテイメント・テクノロジー」の融合を一つの基本理念に、あらゆる演目に対応可能な多目的ホールと最先端の設備により、これまでにない質の高い舞台公演芸術等を提供し、東北最高峰の文化芸術拠点を目指すこととしております。具体的には、東北最大級となる二千四百七十七席のホールを有し、イマーシブオーディオなどの最新鋭の音響設備や、可変性を備え一体利用も可能なスタジオシアター・ギャラリー等、特徴のある施設機能を最大限に活用し、国内外の著名オ

ーケストラによるコンサートや人気アーティストによる全国コンサートツアーに加え、これまで東北では上演が難しかった大型ミュージカルやオペラなどの舞台公演など、プロモーターや実演団体等に積極的に働きかけ、誘致してまいりたいと思っております。更に、近年注目をされております二・五次元ミュージカルやアニメ・漫画展、映像と音楽を融合させたデジタルアート展など、最新技術を駆使したメディア芸術、デジタル芸術分野のライブエンターテインメントも積極的に取り入れることによって、これまで文化芸術に関心が低かった層にも足を運んでいただく機会を創出し、新たなファン層の獲得につなげ、宮城でしか体験できないという劇場としての独自性を確立してまいりたいと考えております。相当いいものをつくりますので、お楽しみに。

○小野寺健委員 部長に伺います。創客の実現には職員の意識改革が不可欠だと思います。単なる貸館中心の運営から脱却するために、職員研修や外部専門家との連携等、組織文化をどのように変えていくおつもりなのか伺います。

○末永仁一環境生活部長 県立劇場は現県民会館に比べまして、施設の面積が約三倍となります。ホールやギャラリーなどの諸室も拡大しますことから、鑑賞事業のみならず、様々な自主事業などを展開していくためには、組織体制の強化が必要でございます。このため、県立劇場の開館当初の指定管理が予定されております宮城県文化振興財団では、今年度の当初に文化施設の企画運営に精通した人材を採用いたしました。現在、開館に向けた準備を担当してもらい進めているところであります。今後も計画的に専門人材の確保を図っていく予定としております。また、現在の財団職員の育成も急務でありますことから、職員に対しまして、積極的に外部研修を受講させますとともに、採用しました専門人材と現職員が共に企画から事業実施の段階まで一緒に取り組むことで意識改革と体質改善を図り、組織の活性化にもつなげてまいりたいと考えております。更に、県におきましても、昨年度から全国の文化施設の人材育成ノウハウを有しております一般財団法人の地域創造という団体があるのですが、そちらに職員を派遣しております。県立劇場の開館に向けまして、こうした宮城県文化振興財団と県が連携しながら、組織体制の強化と職員の育成を図ってまいりたいと考えております。

○小野寺健委員 最後になりますが、県立劇場はハードだけ整備されればいいというものではありません。その中身、いわゆるソフトの部分、文化芸術施策の充実を図ってい

かなければなりません。御当局には新県立劇場を単なる集客装置ではなく、文化芸術を通じて価値を創造し、地域社会と関係を築き、持続可能な運営を実現する拠点、宮城の芸術文化の象徴となるように御努力いただきたいと思いますが、最後に村井知事に伺います。

○村井嘉浩知事 県立劇場は、令和十年度の開館に向けて現在整備を進めておりますが、今後いかにソフト面を充実させ、このすばらしい施設に魂を込めていくのが重要であると考えております。今、この質問の場で小野寺委員から様々な御提案をいただきました。例えば、観客との関係を育てて、文化の担い手をつくり出すお客様をつくるという創客という考え方、SNS等を活用した双方向のコミュニケーション、観客と劇場がつながるオンライン接客の考え方、地域資源の活用、文化と観光、教育、福祉など異文化分野との連携、貸館収入に依存しない様々な財源確保策、誘客にもつながる劇場のブランド力の構築、貸館中心から脱却するための職員の意識改革など、どれも非常に重要でございまして、しっかりと今後取り組んでまいらなければならないとしっかりと受け止めたわけであります。県立劇場の開館当初の指定管理が予定される宮城県文化振興財団とともに県も一緒になりまして、御提案いただいたことを実現できるようにしっかりと検討を進めまして、県立劇場が県の文化芸術の中心拠点にとどまらず、東北最高峰の文化芸術拠点となることを目指してまいりたいと考えております。私、知事になって二十一年目に入りましたけども、私の思いが込められた初めての箱物ということになりますので、何としても県民の皆さんに喜んでいただけるようにしてまいりたいと思います。途中で県議会の議員の皆様にもいろいろ視察していただいたり、見ていただくような機会も設けてまいりたいと思っております。ぜひともみんなと一緒にいいものをつくり上げてまいりたいと思っておりますので、今後とも御支援、御指導よろしくお願い申し上げます、私の答弁とさせていただきます。どうもありがとうございました。